

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



## 農薬の浸透移行性



- 作物の茎葉に散布した農薬の有効成分が内部に吸収され、樹体内を移動する性質を**浸透移行性**と呼びます。
- この性質がある農薬は、直接、散布液が害虫や病原菌にかからなくても樹全体に成分が行き渡り、**内部に潜む病虫害の防除が可能**となります。
- 例えば、モモに**アブラムシ**がつくと葉が巻くので散布液が虫にかかり難くなります（写真）。浸透性殺虫剤を使うと隠れた虫にも安定的に殺虫効果が得られます。
- オルトラン等の有機リン剤やモスピラン等のネオニコチノイド剤は本性質を持ちますが、全ての農薬がこの性質を持つわけではありません。農薬パンフレットを参考に**指導機関の指導に従いながら適正に使用**してください。



写真 モモのアブラムシ被害葉



## 気象庁が平年値を更新



- 毎日観測する**気象データの評価基準となる平年値**を気象庁が10年ぶりに更新しました。
- 平年値は過去30年間の平均値で示します。県内各地の平均気温は**旧平年値より0.4~0.1°C上昇**し、温暖化傾向がより明瞭となっています。
- 新旧平年値を比較すると、**最高気温の上昇**が顕著です(図)。つまり、温暖化の下では寒い日が減る傾向より暑い日が増える傾向が明らかです。
- 最高気温の上昇は、①2月中旬~3月下旬、②5月下旬~8月中旬、③9月中旬~10月上旬の各期間に特に明瞭に現れています。**モモ開花の早期化、日焼け・着色不良果の発生、台風災害の増加**などとの関連が考えられます。

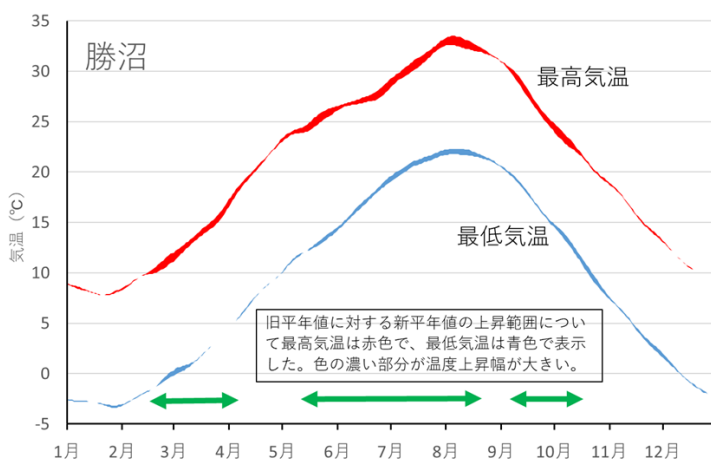


図 年間の最高気温と最低気温の平年値(勝沼)